

都市居住魅力の戦略的推進に向けての提言

平成19年2月

都市居住魅力戦略推進会議

- 目次 -

| | | | |
|----------------------------|----------|---------------------------|----|
| はじめに..... | 1 | <u>プロジェクト2</u> | |
| | | まちへの愛着を高めるまちかど広場づくり..... | 21 |
| 1 . 都市居住を取り巻く近年の状況 | | <u>プロジェクト3</u> | |
| ~ 戦略の背景 ~ | 2 | 既存ストック等の活用による創造的人材の | |
| | | 居住促進..... | 23 |
| 2 . 戦略の必要性..... | 3 | <u>プロジェクト4</u> | |
| | | 居住地魅力づくりのための地域活動への支援..... | 25 |
| 3 . 戦略の目標..... | 3 | <u>プロジェクト5</u> | |
| | | 住むまち大阪の魅力情報の発信..... | 27 |
| 4 . 具体的なプロジェクト..... | 5 | むすび | |
| <u>プロジェクト1</u> | | ~ 戦略の推進にあたって ~ | 29 |
| HOPEゾーン事業の全市的展開 | 6 | | |
| ・町家・長屋等の集積..... | 7 | | |
| ・近代建築 | 9 | | |
| ・商店街のにぎわい..... | 11 | | |
| ・緑の集積や水辺空間 | 13 | | |
| ・旧農村集落・街道集落 | 15 | | |

はじめに

- ・大阪のまちは、天下の台所として栄えた近世から、大大阪と呼ばれるまで発展した近代にかけて、まさに住・職・遊が一体となった、都市に住み・暮らす生活文化が息づくまちであった。しかしながら、高度経済成長期から世紀が変わる頃までは人口の流出が続き、近年でこそ、都心部が再び住むまちとして脚光を浴びるようになってきているものの、都市に住み・暮らす生活文化の記憶や誇りは失われようとしている。都市としての長い歴史を有する大阪ならではの生活文化に学び、地域の豊かさや生活の質を高めながらまちを持続的に発展させていくことが重要となっている。
- ・これまで大阪市では、良質な住宅の供給と住環境の整備、融資・助成制度等の住宅施策を実施してきたが、市民の住まいに対するニーズがますます多様化・高度化したことなどを踏まえ、平成に入る頃には、居住施策への転換を図り、大都市居住ニーズに応える住まいづくりや住情報の提供など、より幅広い都市居住施策を実施している。
- ・最近では、平成16年に、住宅審議会より「今後の住宅施策の方向について」の答申を受け、活気あふれる多様な居住の実現に向けての取り組みを進める一方、平成17年に大阪市営住宅研究会より提言された「今後の市営住宅のあり方について」や、平成18年に一連の市政改革の一環として策定した「住宅局長改革マニフェスト」、「住宅局経営方針」に基づき、積極的に居住施策を推進している。
- ・大阪市には、まちが有する豊富な歴史的・文化的資源や多彩な人的資源を活かすことにより、まち自身にも活力を与え、その活力が新たなまちの魅力・人材を生み出し、さらに市民生活を心豊かなものにするという正のスパイラルを創り出すことが求められており、住宅局としても、「まちの元気と魅力を引き出す」という局の使命を果たしていく必要がある。また、こうした取り組みは大阪の経済の活性化にもつながっていくものとする。
- ・本提言は、このような背景を踏まえ、ハード・ソフト両面の資源を活かした、地域との連携・協働による魅力ある居住地づくりに主眼を置き、大阪市の都市居住魅力の向上を図るための具体的な戦略プロジェクトを打ち出すものである。

1 . 都市居住を取り巻く近年の状況 ~ 戦略の背景 ~

社会経済情勢や住宅事情の変化など、全国及び大阪市の都市居住を取り巻く近年の状況について示す。

全国的な動き

人口減少社会を迎え、開発型から修復型の都市づくりへの転換が進んでいる

社会のグローバル化の進展により、人口及び中枢機能の東京圏への一極集中が進み、また、都市間競争が激しくなっている

少子高齢化の進行やワークスタイルの変化等を背景に、ライフスタイルが多様化・個性化し、住まい方や住環境に対するニーズも多様化している

環境に配慮した、安全・安心な住まい・まちづくりへの意識が高まっている

高度情報化社会の進展により、住まい・まちづくり分野での情報収集・発信機能が多様化している

大阪市における現状

歴史的・文化的な雰囲気やまちなみなど、地域資源に恵まれた個性豊かな居住地区が数多く存在するものの、居住魅力に対する認識や情報の発信が不十分である

交通ネットワークや買い物環境の面で生活利便性が高く評価される一方で、治安の悪さといった負のイメージにより、魅力的な居住地としての認知がされにくい

マンション建設等による都心部への人口回帰がみられるが、地域のコミュニティと新住民との交流が進んでいない

身近な住環境の改善、地域文化の掘り起こしや発信など、まちづくりに関わる人が増加しており、そのネットワーク化が図られつつある

地域の人々と行政が連携・協働し、地域特性を活かした住宅等の修景や公共施設の整備等を行うHOPEゾーン事業など、都市居住魅力の創造に関わる取り組みの経験がある

2 . 戦略の必要性

住んでいる人はもとより、働く人や学ぶ人、訪れる人にとっても住みたいと感じられる魅力あるまちを実現するためには、住宅や住環境を整備するだけでなく、暮らしやすさや生活の質を高め、地域の豊かさや文化の創造的発展を支える基盤として住まいや住環境を捉えることが重要である。

そこで、「まちに住まう」視点から、地域の歴史や文化、人々の繋がりなど、これまで大阪が育んできた有形無形の資産を活かし、都市居住の魅力をより一層高めることが、今まさに強く求められている。

3 . 戦略の目標

まちの遺伝子と人のネットワークで、魅力ある居住地を育み、
住むまち大阪の魅力を高める

まちの遺伝子を活かした居住地づくり

長い歴史をもつ大阪においては、それぞれのまちが独自に積み重ねてきた、居住地としての歴史や文化、アメニティといったものが存在する。それらは、時を重ねた建築物や道路、水や緑等で形づくられるまちなみ、祭り等の文化的営み、商店街のにぎわいや自治の精神など、非常に多様な様相を持っており、そのまちを特色づける、いわば「まちの遺伝子」というべきものである。こうしたまちの遺伝子を掘り起こし、活かすことにより、魅力ある居住地を実現する。

地域の熱意と人のネットワークによる居住地づくり

地域の人々やNPO、企業、専門家、行政など、様々な主体が連携・協働し、地域活動に取り組むことを通じて、まちに対する地域の熱意を育むとともに、そこで住み、働き、学ぶ人々のネットワークを築く。その積み重ねによって、地域の活力や課題解決力を高め、地域への愛着と誇りをもって暮らすことのできる魅力ある居住地を実現する。

住むまち大阪の魅力の情報発信と共有

大阪の住むまちとしての魅力は十分に伝わっておらず、幅広く効果的な情報発信をしていくことが重要である。様々な人々がその魅力を共有し、さらにそれが人から人へと伝えられていくことにより、まちの魅力と活気をより一層高めていく。また、大阪のまちに息づいている生活文化や地域の価値観を次代へと引継ぎ、地域の豊かさや生活の質を高めながら、まちを持続的に発展させていくことにより、住むまち大阪の魅力を高めていく。

4 . 具体的なプロジェクト

HOPEゾーン事業の全市的展開

歴史・文化資源、近代建築、にぎわいある商店街、水・緑等の様々な地域資源や地域の熱意を再発見・再認識し、市民やNPO等と連携・協働しながら居住地の魅力を高めるHOPEゾーン事業を戦略的に全市へ展開するとともに、それらをネットワーク化することにより、大阪の地域ブランド力の向上を図る。

まちへの愛着を高めるまちかど広場づくり

地域住民自らが主体となって、地域活動や防災活動の拠点となるまちかど広場づくりを進め、そのプロセスを通じてまちへの愛着を高めることにより、地域の活力を高める。

既存ストック等の活用による創造的人材の居住促進

既存住宅ストック等を活用し、アーティストやクリエイターなど、多様な人材の市内居住を促進することにより、新たな都市居住の魅力を創出する。

居住地魅力づくりのための地域活動への支援

住まい情報センターのノウハウ等も活用し、市民が主体となった地域活動への支援を行い、魅力ある居住地づくりの活性化とそれに携わる人のネットワークを形成する。

住むまち大阪の魅力情報の発信

住むまち大阪の魅力を今日的な視点であらためて整理し、それらを効果的な手法で発信することにより、市内外の方々に、広く大阪の居住地の魅力を知ってもらう。

プロジェクト1 HOPEゾーン事業の全市的展開

多様な地域資源を活かしたまちなみ整備への展開

これまで大阪市では、平野郷地区、住吉大社周辺地区、空堀地区でHOPEゾーン事業を実施してきた。これらの地区では、町家・長屋等の集積を主な地域資源と捉え、まちづくりのテーマやまちなみ整備の基準である「まちなみガイドライン」を策定してきた。

しかしながら、大阪には町家・長屋の他にも、近代建築や、商店街、豊かな緑や水辺、旧街道など、それぞれのまちを特徴付ける様々な地域資源が存在する。そこで、市民から募集した魅力あるまちについてのアンケートの結果等も踏まえ、こうした様々な地域資源を活かしたまちなみ整備を推進することにより、全市的にHOPEゾーン事業の新たな展開を図り、大阪の地域ブランド力の向上を図る。

- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| ・町家・長屋等の集積 | ・近代建築 | ・商店街のにぎわい |
| ・緑の集積や水辺空間 | ・旧農村集落・街道集落 | など |

多様な手法を活用したまちなみ整備への展開

これまでのHOPEゾーン事業では、「まちなみガイドライン」に基づく住宅等の修景整備のほか、道路の美装化、コミュニティ広場や交流拠点の整備等の公共施設等の整備を行ってきた。今後、まちなみ整備にあたっては、上記のような様々な地域資源を活かすとともに、既存ストックのリノベーション・コンバージョンの促進など、多様な手法を取り入れていく必要がある。

まちなみ整備の手法の例

- ・地域資源を活かした建物等の修景整備
- ・既存ストックのリノベーション・コンバージョンの促進
- ・環境に配慮した建物や空間の整備
- ・公共空間からの視線等に配慮した建物や空間の整備
- ・まちなみに調和した道路等公共空間の整備
- ・地域資源の要素を活かしたモニュメント・サインシステム等の整備
- ・規制誘導手法を活用したまちなみの形成

次のページから上記の地域資源を活かしたまちなみ整備イメージを示す。

町家・長屋等の集積

地域資源として取り上げる理由・ポイント

歴史的・文化的地域資源に対する地元住民の意識が高く、まちづくり活動が活発な地区が多い路地のコミュニティや、祭礼、地蔵盆など、昔ながらの生活文化があり、一般的に持たれているイメージとは異なる、大阪が持つ地域固有の居住地魅力を発信できる

町家や長屋、路地、石畳など、景観資源が多様であり、歴史的・文化的な雰囲気やまちなみに恵まれているため、修景により調和のとれたまちなみ形成が期待できる



整備のテーマ(例)

町家や長屋等を活かした まちなみの形成

- ・歴史的・文化的なまちなみにあわせた住宅等の修景整備
- ・道路の美装化や顕彰碑の設置
- ・路地や石畳の修景整備

既存ストックを活かした 地域活動拠点の整備

- ・町家等を活かした交流拠点の整備
- ・歴史資源を活用したコミュニティ広場の整備

昔ながらの生活文化 を活かした魅力の向上

- ・地域資源マップ等の作成とまち歩きの実施
- ・路地空間や町家等を活用したアート展示等のイベントの実施

整備イメージ図

歴史的・文化的まちなみにあわせた住宅等の修景整備(門、塀、屋根等)



歴史資源を活用したコミュニティ広場の整備



路地や石畳の修景整備



マンション等が建設される際には、周辺のまちなみに調和した外観に誘導

周辺のまちなみにあわせた道路の美化



町家等を活用した交流拠点の整備



周辺のまちなみにあわせた公園の修景整備



近代建築

地域資源として取り上げる理由・ポイント

近年、生活利便性の高さや、職住近接等の魅力が見直され、都心部におけるマンション供給が活発化し、居住者も増加していることなどから、都心部に集中している近代建築が市民にとって、より身近なものとなっている。近代建築は、洗練されたモダンな外観がまちの景観の核となっている点や、IT化された現代的なオフィスやおしゃれなレストラン等への転用も進んでいる点など、大阪での都心居住の魅力の一翼を担っている。住宅やSOHOへのコンバージョンにより、ライフスタイルの多様化・個性化、住まい方に対する意識の多様化等に対応した個性的な住宅の供給が可能。

近代建築を活かしたまちなみ整備やコンバージョン等を推進することにより、大阪での都心居住の魅力がさらに高まり、大阪のブランドとなる個性豊かな居住地の形成に繋がると考えられる。



整備のテーマ(例)

景観の核としての近代建築を活かした修景整備

- ・住宅等の新築、改修時におけるまちなみガイドラインに基づく修景整備
- ・まちかどの景観を形成する近代建築の修景整備
- ・近代建築の要素を活かした、モニュメント等の整備

住宅へのコンバージョン等によるストック活用の促進

- ・住宅やSOHO等へのコンバージョンの促進
- ・耐震改修等によるリノベーションの促進

近代建築を活用したまちなみづくり

- ・住宅の新築時等におけるまちなみに配慮したコミュニティ広場の整備
- ・近代建築のディテール・意匠に配慮したサインシステムの導入

整備イメージ図

住宅、事務所等の新築、改修時におけるまちなみガイドラインに基づく修景整備
(近代建築のディテール、色彩、素材の使用)



住宅やSOHO等へのコンバージョンの促進
(コンバージョンによる近代建築の活用)



耐震改修等によるリノベーションの促進



近代建築の修景整備
(シンボリックなまちなみ景観の形成)



近代建築の要素を活かしたモニュメント等の整備
(まちなみの連続性の確保、解体された近代建築の「記憶」の継承)



住宅の新築時等におけるまちなみに配慮したコミュニティ広場の整備
(眺望点の確保とまちなみの連続性の確保)



近代建築と調和した歩道空間等の整備

近代建築のディテール・意匠に配慮したサインシステムの導入

商店街のにぎわい

地域資源として取り上げる理由・ポイント

商店街のにぎわいと、その周囲の住宅地の活性化との相乗効果により、住商が一体となって活気と活力を創出している

商店街は地域の日常生活に密着した場であり、人々の交流や地域活動の中心となり得るポテンシャルがある

連なった店舗やアーケード等の一体的な整備により、個性的な空間の形成が可能

空き店舗や低未利用地等を活用して、まちづくり活動や市民交流の拠点の整備が可能



整備のテーマ(例)

にぎわいと暮らしが共存する空間の整備

- ・商店街に面した集合住宅のデザインの誘導
- ・集合住宅低層部分への店舗スペースの設置誘導
- ・横路地を活用したにぎわいのウラ空間へのアクセス確保

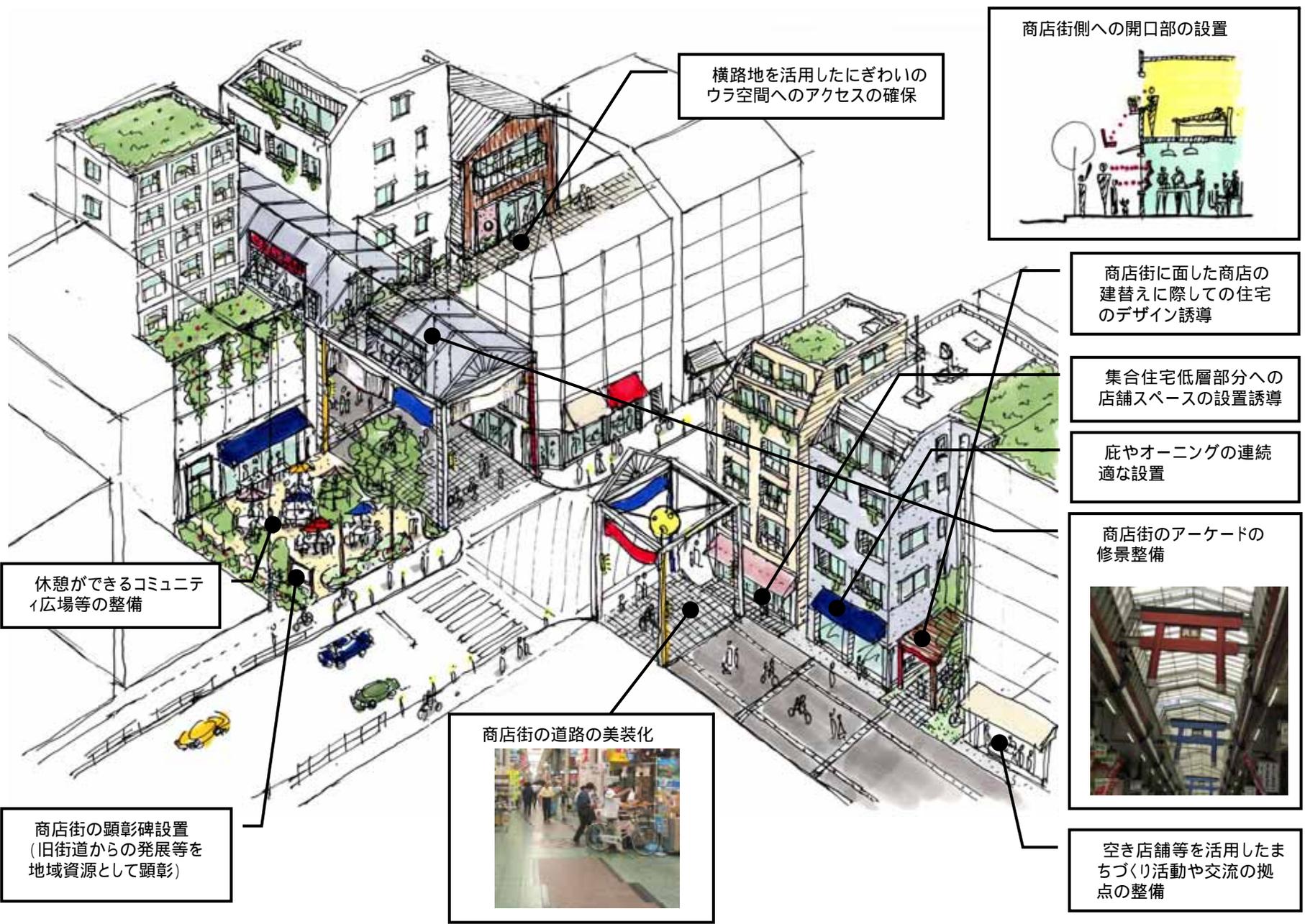
にぎわいの連続性を活かしたまちなみの形成

- ・建物の商店街側への開口部の設置
- ・庇やオーニングの連続的な設置
- ・商店街のアーケードや道路等の修景整備

商店街機能を活かした都市生活の魅力向上

- ・空き店舗等を活用したまちづくり活動や交流の拠点の整備
- ・コミュニティ広場等の整備や顕彰碑設置

整備イメージ



緑の集積や水辺空間

地域資源として取り上げる理由・ポイント

大阪市では、住環境の要素の中で、緑や水辺等の自然とのふれあいについての不満率が高い一方で、水の都としての歴史を見直す動きや河川沿いの植樹運動等がみられる

住宅地から緑や水辺空間への多様なアクセス路を整備し、周辺を含んだ回遊性を確保することにより、一体的な居住空間の形成が期待できる

公園や水辺からの視線に配慮した建物の形成を図るなど、緑や水辺空間を活かしたまちなみの整備により、潤いや憩いの場を持つ魅力ある居住地の形成に繋がると考えられる



整備のテーマ(例)

緑や水辺空間を活かした まちなみの形成

- ・公園や水辺に面した住宅等の緑化・修景整備
- ・公園や水辺へのアクセス路沿いの建物の修景整備
- ・環境に配慮した住宅等の誘導

多様なアクセス路の整備 による回遊性の確保

- ・周辺敷地・建築物から公園や水辺へのアクセス路の確保
- ・親水性の高い水辺空間づくり
- ・水辺へ向けた建築物の開口部やテラスの設置

緑や水辺空間を活かした 都市生活の魅力向上

- ・周辺エリアも含めた公園や水辺の散歩ルートマップの作成
- ・コミュニティ広場の整備や顕彰碑の設置
- ・大阪に原生的に生育する樹種を用いた植樹等の推進
- ・水辺のライトアップ

整備イメージ図

住宅・店舗等の修景整備
 (店舗等のショーウィンドー、テラス等)
 (公園の緑と調和した色彩や素材の使用)
 (公園からの視線への配慮)



環境に配慮した住宅等の誘導
 ・保水性舗装の利用
 ・屋上緑化・壁面緑化の促進
 ・ビオトープの設置



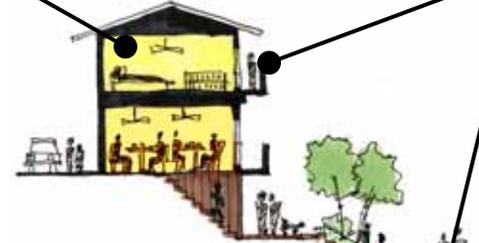
公園へのアクセス路の確保と沿道建物の修景整備
 (垣、柵、植栽、サイン、オープンカフェの庇等)



建物ごしの公園への見通しの確保



水辺に面した住宅等の修景整備
 (開口部の意匠の工夫、室外機の目隠し、植栽など、水辺からの視線への配慮)



水辺へ向けて張り出したテラスづくり
 (水辺からの視線への配慮)

川沿いの建物低層部における開口部設置

親水性の高い水辺空間づくり



水辺へのアクセス路の確保と沿道建築の修景整備
 (川沿いの建物内・敷地内)



コミュニティ広場の整備
 (橋梁の袂等に植栽、ベンチ等の設置)

旧農村集落・街道集落

地域資源として取り上げる理由・ポイント

古くから市街化された地域であり、祭り等の伝統的活動が盛んであることから、地域の繋がりが強い寺社や町家、井戸、祠など、景観的なスポットとなる多様な要素が、旧街道を軸として集積しており、修景効果が高い

歴史的・文化的な地域資源に対する地元住民の意識が高く、地域が一体となったまちなみの保全・形成への展開が可能



整備のテーマ(例)

旧街道や社寺等を活かした まちなみの形成

- ・歴史的まちなみにあわせた住宅等の修景整備
- ・旧街道の美装化や顕彰碑の設置
- ・路傍樹、祠を活かした景観スポット、休憩スペースづくり

リノベーション等による ストック活用

- ・歴史的建築物の耐震補強や防火水槽の整備等による安全性の確保

旧農村集落の生活文化 を活かした魅力の向上

- ・路傍樹マップ、お地蔵さんマップ等の作成
- ・祭り等の伝統的活動を地域全体で支えるための活動拠点の整備

整備イメージ図

歴史的まちなみにあわせた住宅等の修景整備
(門、塀、蔵、屋根)



歴史的まちなみと調和した舗装整備
(木や石等の伝統的素材の使用と
意匠の工夫)

地域のシンボリックストリートと
しての旧街道沿いの建物の
修景整備(アイストップとし
てコーナー部分の修景整備)

シンボリックな街角景
観を形成する蔵や鐘
楼等の修景整備



路地の修景整備



地域のシンボリックストリート
として旧街道の美装化
(入口部分の演出)

路傍樹、祠を活かした景観スポット、休
憩スペースづくり(ベンチ、植栽)
地域資源の要素を活かしたモニュメン
トの設置

祭り等の伝統的な活動を
地域全体で支えるための
拠点整備

新たなHOPEゾーン事業の候補地の提案

HOPEゾーン事業の全市的な展開に向けた候補地として考えられる地区を表に示す。事業化にあたっては、これらの地区のほか、地域資源の状況や地元のまちづくりの機運を考慮して決定する必要がある。

| No | 地区名 | 区 | 地域資源等 | | | | | | まちづくり活動・プロジェクト | 備考 | |
|----|---------|------|--------------------|-----------------------|-------------------------|--------|--------------|----------------|----------------|---|------------------------------------|
| | | | 町家・長屋などの集積 | 近代建築 | 商店街のにぎわい | 緑の集積 | 水辺空間 | 旧農村集落・街道集落 | | | 寺社等 |
| | 中崎町 | 北区 | ・長屋・町家の集積 | | ・天五中崎通商店街 ・魅力的な個店の集積 | | | | | ・SINGLES PROJECT | |
| | 天満 | 北区 | ・町家・蔵の集積 | | ・天神橋筋商店街 | ・南天満公園 | ・大川 | | ・大阪天満宮 | ・NPO水辺のまち再生プロジェクト(水辺を活かしたまちづくり活動) ・町街トラスト(天神橋筋商店街を中心としたまちづくり活動) ・上方落語の拠点施設「天満天神繁昌亭」の建設 ・天満音楽祭 | ・オフィスやSOHO型住宅 |
| | 船場 | 中央区 | | ・近代建築(綿業会館、生駒ビルディング等) | ・三休橋筋商店街 | | | | | ・せんばGENKIの会(多様な主体が参加するプラットフォーム) ・大オオサカまち基盤(近代建築を活用するまちづくり活動) ・三休橋筋プロムナード整備計画と三休橋筋発展会・三休橋筋商業協同組合の設立 ・御堂筋まちづくりネットワーク ・太閤緑地プロジェクト ・船場アートカフェ ・北船場くらぶ ・三越跡地開発 | ・オフィスやSOHO型住宅 |
| | 靱公園 | 西区 | | | ・魅力的な個店の集積 | ・靱公園 | | | | ・靱公園くらしとみどりネットワーク(靱公園を中心としたまちづくり活動) ・京町堀円舞曲 | ・オフィスやSOHO型住宅 ・終戦直後のレトロなオフィスビル |
| | 川口・江之子島 | 西区 | | ・川口教会 | | | ・安治川 ・木津川 | | | ・江之子島の旧府庁跡地の開発事業コンペ ・九条・下町ツアー ・九条異人町推進協議会 | ・大倉庫群 ・大阪港開港の地 ・大規模マンションの立地 |
| | 阪南町 | 阿倍野区 | ・長屋の集積 | | | | | | | ・あずの会(建築の専門家集団による伝統的住まいづくり) | ・区画整理による整形街区 |
| | 大今里 | 東成区 | | | | | | ・大今里村 | | ・熊野大神宮だんじり保存会 | |
| | 田辺 | 東住吉区 | ・町家・農家の集積 | | ・南田辺本通商店街 ・南田辺駅前商店街 | | | ・北田辺村 ・南田辺村 | ・法楽寺 ・山坂神社 | ・北田辺のまちと歴史を考える会(路傍の楠の保存と地域の歴史掘り起こし) ・田辺大根増やしろ会(なにわ伝統野菜の掘り起こしと普及) ・田辺寄席の活動 ・7.26模擬原爆追悼実行委員会 ・作家開高健の文学碑建立委員会 | |
| | 千林 | 旭区 | | | ・千林大宮商店街 | | | ・千林村 ・今市村 | | ・千林地域活性委員会(地域の商店会と商業施設で構成) | |
| | 帝塚山 | 住吉区 | | | | ・万代池公園 | | | | ・帝塚山街づくり交流会 | ・お屋敷街 ・帝塚山学院 ・阪堺電気軌道 |
| | 相川 | 東淀川区 | | | | | ・神崎川 ・安威川 | | | ・アドブ・リバー・小松(大阪資生堂大阪工場) ・アドブ・リバー・井高野(安威川花とみどりの会:緑化フェア街なか会場) ・大阪成蹊学園による地域連携 | ・区画整理による駅前の放射状街区 ・大阪成蹊学園 |
| | 住ノ江駅周辺 | 住之江区 | ・洋風長屋の集積 ・長屋の集積 | | ・安立甲英商店街 | | | ・紀州街道 | | ・安立まちづくり研究会 | ・区画整理による整形街区 ・阪堺電気軌道 ・レトロな銭湯 |
| | 長吉川辺 | 平野区 | ・町家・農家の集積 | | | | ・大和川 | ・川辺村 | ・川辺八幡神社 | | |

マイルドHOPEゾーン事業における展開

マイルドHOPEゾーン事業は、都心部にありながら、歴史的資源や豊かな緑など、「住むまち」として高いポテンシャルを持つ上町台地(約900ha)を、都市居住促進のリーディングゾーンとして位置付け、地域特色を活かした居住地整備を進めることを目的として平成17年度から実施されており、これまでのところ、平成18年6月に設立された「上町台地マイルドHOPEゾーン協議会」と連携し、魅力ある居住地づくりに取り組むNPO等が行う事業への助成や、協議会のホームページ等による魅力情報の発信といった、ソフトな取り組みを行っている。

協議会においても、今後、これらに加え、地域魅力を高めるポイントとなるエリアでの修景補助や公共施設整備の実施等について検討されているが、ソフト・ハードがより一層あいまった取り組みへと発展させていくことにより、上町台地の居住地としてのブランドイメージの確立と、魅力ある居住地の形成を図る。

現在の取り組み

協議会への助成

(広報・情報発信、データベースの作成、イベント等の開催)

NPO等が行うまちづくり事業への助成

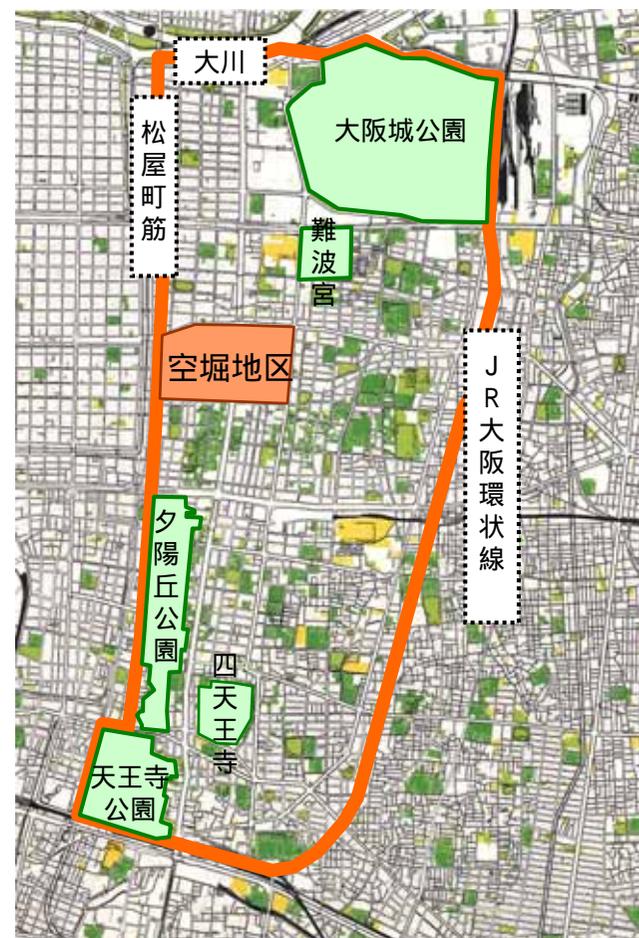
住まい情報センターと連携した情報発信



今後の展開方向

地域魅力を高めるポイントとなるエリアでの修景補助や公共施設の整備

まちづくり団体との連携強化によるまちづくり活動の一層の活性化と魅力情報の効果的な発信



具体的な取り組み

上町台地の歴史的・文化的資源のデータベース化

上町台地には古くからの自然の地形や緑といった資源に加え、寺社や街道・坂道、当地で生まれ活躍した先人の碑、当地を舞台とした小説や文学など、歴史的・文化的にも貴重な資源が数多く残されており、それぞれが過去から現在へと繋がる上町台地の歴史を物語っている。

このようなハード、ソフト両面での貴重な資源を整理し、データベース化することが望まれる。

上町台地の歴史や文化を踏まえたテーマ性・ストーリー性のある修景整備

上町台地の魅力を高めるポイントとなるエリアでの修景整備や公共施設整備の実施に際しては、上町台地のもつ歴史的・文化的資源を活かし、テーマ性・ストーリー性に十分に留意し、時間的にも空間的にも連続性のある展開が望まれる。

まちづくり団体への事業助成等によるまちづくり活動の活性化

NPO等のまちづくり団体による上町台地の居住地魅力を高める取り組みに対して、助言や助成を行うとともに、発表会や交流会等を実施することにより、事業内容の相互把握や情報の共有化、翌年度の事業活動への新規参入を促すなど、まちづくり活動の活性化を図ることが望まれる。

まちづくり団体の連携強化による効果的な魅力情報の発信

上町台地では、NPO等のまちづくり団体が様々な活動を展開しているが、活動内容や実施しているイベント情報を協議会のホームページに集約化することなどにより、団体相互の連携・ネットワーク化をより一層進め、まちづくり活動の活性化を図るとともに、上町台地に関する魅力情報等を効果的に発信することが望まれる。

協議会活動の多彩な展開と事業地区のネットワーク化

HOPEゾーン事業を実施するにあたり事業地区ごとに設立されるまちづくり協議会においては、これまでも、修景補助の基準となるガイドラインの作成等のまちなみ整備方策の検討や、機関紙の発行や勉強会等を通じた地域の魅力づくりの活動等を行っている。

今後、近代建築や商店街等の新たな地域資源を活かした事業の展開を考えるにあたり、例えば都心部では、近代建築を含めた建築物の多くを個人でなく企業が所有していること、居住者以外の働く人や学ぶ人、観光で訪れる人が多いことなどが特徴として挙げられる。新たな地域資源の活用にあたっては、まちづくり協議会の活動においても、このような特徴を認識し、さらなる展開を図る必要がある。

展開の方向性

- ・地域資源を紹介するガイドツアーの実施、空き教室や空き店舗等の活用による地域に開かれた施設の運営の促進など、多様な地域資源を活かした都市生活の魅力向上策を推進する
- ・防災、防犯、環境、アートなど、地域の魅力向上に繋がる居住環境づくりをテーマとした取り組みを推進する
- ・地域で子どもを育むために、その地域に根ざした居住文化の継承等を通して、まちへの愛着を高める取り組みを推進する
- ・関連機関やNPO等との連携や、居住者以外のまちに関わる主体の協議会参加の促進など、多様な主体との連携・協働による事業推進体制を構築する

HOPEゾーン事業地区ごとの協議会相互の連携強化を目的とした連絡協議会を設置し、イベントの開催等を通じて、情報交換・交流の促進を図り、事業地区のネットワーク化と広域的な情報発信による大阪の地域ブランド力の向上をめざす。

関係部局によるネットワーク組織の設置

今後、HOPEゾーン事業を全市的に展開していくにあたっては、関係する局や区役所が連携して取り組んでいくことが不可欠であり、関係部局が恒常的に連携できるネットワーク組織の設置が必要となる。

地域住民自らによる計画づくりと維持管理の実施

大阪の都市居住の魅力を高めるためには、地域のコミュニティが活性化し、まちへの愛着が高まることにより、それぞれのまちの魅力が向上することが重要である。

まちかど広場は、地域活動や防災活動の拠点となるものであり、地域住民自らによる計画づくりや維持管理、イベントの実施等を通じて、地域文化の再発見、地域コミュニティの活性化を図り、まちへの愛着を高め、地域魅力の向上を図る。

- ・まち歩きやウォークラリー等による地域魅力の再発見
- ・ワークショップ方式を活用した地域住民による企画・設計
- ・地域住民による自主的な日常管理
- ・祭りや防災訓練等のイベントの開催

地域魅力の向上と合わせて、安全・安心なまちづくりの観点から地域防災力の向上を促すため、生野区南部地区での経験も踏まえ、まず、戦略的に「特に優先的な取り組みが必要な密集住宅市街地(約1,300ヘクタール)」において、古くからのコミュニティを活かしながら、まちかど広場づくりを実施することが考えられる。

まちかど広場ネットワークの構築

地域住民自らにより計画・管理される「まちかど広場」の魅力をより一層高めるため、「まちかど広場ネットワーク」を構築し、日常管理のノウハウの共有やイベントの共同開催等を実施する。

- ・日常管理のノウハウの共有
- ・年に一度、「まちかど広場の日」を定め、同時開催で合同イベントを実施
- ・紙芝居の巡回など、NPO等との協働イベントにより大阪の歴史・文化を継承

まちかど広場の整備のイメージ

まちかど広場の整備においては、企画段階から地域の方々の参加によるワークショップ形式を取り入れ、特色ある設計とするとともに、完成後も地域の方々に愛着をもって管理してもらうなど、地元との連携・協働を図る。



A わがまち再発見ウォーキング



B まちかど広場の整備に向けたワークショップ



C 完成イメージ模型



D 完成したまちかど広場

【まちかど広場でのイベントの様子】



まちかど広場の整備手順(例)

A「わがまちの再発見」

地域の方々と地区内のウォークラリーを行い、自然や歴史等の地域資源を再発見し、広場のあり方を考える。

B「ワークショップでの意見交換」

ワークショップ方式を活用し、広場の設計等についてのイメージを共有する。

C「完成イメージ模型の作成」

広場のイメージ模型をもとに、広場施設の内容について、配置・形態や管理方法の意見交換を行うとともに、広場の名称を考える。

D「広場の整備 地元の管理」

広場の完成後には、地域の方々による管理を行い、祭りや防災訓練など、様々なイベントで活用されている。

プロジェクト3 既存ストック等の活用による創造的人材の居住促進

既存ストックを活用したアーティストの居住支援

都市に人を引きつける魅力となる文化を育むことにより、都市の魅力と創造力の向上を図るためには、アーティストの能力や個性を引き出すことや、芸術文化活動を企画・運営する機能等が重要であり、アーティストが創作・発表する機会の拡充が求められている。

そこで、芸術家の想像力をかきたてる雰囲気をもった既存住宅ストックを活用し、次代を担うアーティストを対象に、安定した居住の場と、安心して芸術活動が行え、創造活動を行っている者同士の交流や発展ができる場を提供することにより、芸術を核とした新たな都市居住魅力の創出を図る。

モデルケースとして、大阪市住まい公社の川口住宅において取り組むことにより、民間オーナーの既存ストック活用促進も図る。

事業内容

- ・入居者の個性を活かし、住戸内部をセルフメイド方式により改修
- ・アトリエやギャラリー、交流スペース等の整備
- ・芸術関係の近隣施設や、周辺地域との連携により、芸術を核とした居住地魅力の創出

次のような点から大阪市住まい公社の川口住宅を対象にモデルケースとして取り組むことが考えられる

- ・老朽化しているが、雰囲気のある住宅である
- ・階高の高い低層部を活用し、アトリエやギャラリー、交流スペース等の整備が可能
- ・近接する府立産業技術総研跡地に移転予定の大阪府立現代美術センターや、大規模な倉庫群など、周辺地域との連携により、芸術を核とした新たな魅力ある居住地となる可能性が高い

事業のイメージ

入居者の選考 芸術関連の専門家等による選考

住宅をセルフメイド方式でリフォーム + 交流の場やサポート機能等の整備

居住の場として、また、芸術創作活動の場として利用

大阪府立現代美術センターや大規模な倉庫群との連携による創造活動の地域への展開

周辺地域も含めた文化創造活動の活性化による都市居住魅力の創出



SOHO型住宅に関する情報提供や普及啓発等による創造的人材の居住支援

ワークスペースと居住空間が融合したSOHO型住宅に関する情報提供や普及啓発等により、SOHO型住宅への入居を希望するクリエイター等の居住支援を行うとともに、リノベーション等による既存ストックの有効活用を希望するオーナーとのマッチング等を進めることにより、都市居住魅力の向上を図る。

居住地魅力づくり活動への支援の推進

大阪市全体の居住地の魅力を向上するには、まちの様々な場所で市民が主体となって魅力ある居住地づくりに繋がる活動が積極的に行われ、それに携わる人々のネットワークの形成が図られることが重要である。

また、地域の歴史や居住文化、伝統等の継承を通して、子どもたちのまちへの愛着や誇りを高めることにより、居住地魅力づくりを担う次世代の人材を育てることも重要である。

そのためには、市民が主体となった居住地魅力づくりに繋がる様々な地域活動に対して、大阪市が積極的に支援を行っていくことが必要である。

このような地域活動への支援方策としては、例えば、地域で行われる講演会やワークショップに、大阪市立住まいのミュージアム(大阪くらしの今昔館)の学芸員や住まい情報センターの職員等を、講師やスタッフとして派遣することや、住まい情報センターを拠点とする住まいネットワークにおけるタイアップイベント等を、まちの様々な場所を活用して積極的に行うこと等が考えられる。

活用する場所の例

- ・商店街の空き店舗
- ・マンションの集会室
- ・地域集会所
- ・HOPEゾーン事業で整備した交流拠点

居住地の魅力づくりに繋がる活動の例

- ・地域の歴史・文化の勉強会・ワークショップ
- ・居住文化の継承など、地域で子どもを育む取り組み
- ・マンション住民と既存の地域コミュニティとの交流促進
- ・安全・安心な住宅づくり

取り組み例

大阪くらしの今昔館による出前講座の実施

専門知識をもった今昔館の学芸員を、地域の歴史・文化・住まい方等に関して地域で行う勉強会やワークショップに講師等として派遣する出前講座を実施する。また、大阪くらしの今昔館のボランティア(町家衆)の方の協力を得て、大阪の居住文化の継承に繋がる活動を実施する。

住まいネットワークを活用した、タイアップイベントの地域での開催

市民・NPO・専門家団体・大学の研究室等のまちに関わる多様な主体と行政の連携・協働による居住地魅力の向上を目的に、住まい情報センターを拠点として構築する住まいネットワークを活用し、NPOや専門家団体等と連携したタイアップイベントを地域で開催。

HOPEゾーン事業で整備した交流拠点等を活用し、居住体験プログラムを実施

大阪くらしの今昔館で子どもを対象に実施している居住文化体験プログラムを拡充し、HOPEゾーン事業で整備した交流拠点等を活用し、高齢者や団塊の世代をターゲットにした生涯学習の場や、学生を対象とした専門的な学習の場としての展開を図る。

[参考] 住まいネットワークの取り組みイメージ

- ・まちづくり団体と住まい情報センターとのタイアップイベントの開催
- ・居住地魅力の向上・まちづくりに関するシンポジウム等の開催
- ・住まい情報センターにおけるまちづくり団体の交流
- ・ミュージアムを中心に、大学の研究室等と連携したまちづくりに関する調査・研究の実施
- ・まちづくりに関するイベントカレンダーや団体のHPとのリンクコーナーなど、Web上での交流

プロジェクト5 住むまち大阪の魅力情報の発信

住むまち大阪の魅力を紹介するコンテンツづくり

路地や長屋といったレトロなまちなみと下町のコミュニティにより趣深い雰囲気のある居住地、大都市ならではの利便性をもった職住近接の都心の居住地、商店街のにぎわいやコミュニティ等により住商が一体となって活気を生み出している居住地など、大阪には地域資源に恵まれた個性豊かな居住地が数多く存在する。

このような住むまち大阪の魅力を広く世間に知ってもらうため、様々な魅力情報を今日的な視点であらためて整理し、多様なメディア活用に向けたコンテンツづくりを行う。特に、高度情報化社会の進展により、情報収集・発信機能が多様化していることを踏まえ、画像や動画等のビジュアルコンテンツづくりを行うなど、ICT(インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー：情報通信技術)の積極的な活用を図る。

「(仮称)住むまち大阪スタイル」の編集、刊行

集まったコンテンツを用いて、住むまち大阪の魅力を総合的に紹介する出版物を編集・刊行する。

出版物のイメージ

- ・地域資源に恵まれた個性豊かな居住地を数多く紹介するもの
- ・地図・カレンダー等により、地域の年中行事などを紹介し、身近なまちの楽しみ方、まち歩き・まち遊びのガイドとなるもの
- ・ガイドブックあんじゅの住むまち大阪スタイルを発展させたもの(まちに暮らす人の声をのせ、身近なまちの暮らし方の参考になるもの)
- ・生活基本情報とは別の、自由な時間にまちを遊ぶ時に使えるもの
- ・単身赴任者や留学生など、短期居住者にとっても役立つもの
- ・企業の総務担当者等に提供することで、社員の大阪市内居住が促進されるもの

住まい情報センターを中心とした効果的な情報発信

住むまち大阪の魅力を広く世間に知ってもらうため、様々なメディアを活用し、その特性に応じて効果的に情報発信する。

- ・「(仮称)住むまち大阪スタイル」の編集に伴い収集される大阪の魅力情報等に、日常生活に必要な基礎的情報も加え、総合的な住情報として、住まい情報センターにおいて発信する。また、情報発信力の強化をめざし、住まい情報センターのWebサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」の拡充を図る。

あんじゅネットの拡充案

- ・生活・住まい関連情報や、防災・子育て等の身近な居住環境に関する情報等を検索できるマップシステムを設置
- ・ガイドブックあんじゅで提供する住まいに関するノウハウの情報や、特色あるまちの魅力を紹介するコーナー等について、動画の活用など、ネットの特徴を活かしながら展開

- ・大阪の住まいに関する情報発信に重要な役割を果たしている大阪くらしの今昔館においても、特別展を企画し、居住地の魅力情報を積極的に発信する。
- ・魅力的なライフスタイルがイメージできるような居住地情報の雑誌への掲載
- ・鉄道会社等とタイアップしたまち歩きの実施や沿線情報誌・沿線イベントカレンダー等を活用した居住地の魅力情報の発信

むすび ～戦略の推進にあたって～

- ・大阪市の都市居住を取り巻く状況としては、それぞれのまちが居住地としての歴史や文化を持ちながら、それらの魅力が十分に活かされたり、発信されたりしていないことから、生活利便性の高さや治安の悪さといった、従来一般にもたれているイメージから脱しきれていない。しかし、その一方で、地域のまちづくりに関心をもつ人や、様々な活動に参加する人が増えてきており、また、居住地の魅力の創造や、PR、情報発信に関する取り組みもみられるようになってきている。
- ・そのため、本提言においては、地域との連携・協働による魅力ある居住地づくりに主眼を置き、大阪市の都市居住魅力の向上を図るための具体的な戦略プロジェクトを打ち出した。
- ・これらのプロジェクトを展開するにあたっては、高度情報化社会において通信ネットワークが急速に発達するなか、それぞれの場面において、効果的な情報発信を行うことが重要であり、その基礎となる大阪の魅力情報のコンテンツづくりをしっかりと行っていくとともに、発信するコンテンツや活用するメディアを、様々な対象に応じて選択するなどの工夫が必要である。この点に特に留意して各施策を展開されたい。
- ・なお、HOPEゾーン事業の全市的展開に向けて、新規地区を選定するにあたっては、本提言において示した候補地の他にも、地域資源の状況や地元のまちづくりの機運等を考慮して決定する必要がある。
- ・今回提言したプロジェクトはもとより、都市居住の魅力を高める各種施策を展開するにあたっては、観光・子育て・教育等の横断的な政策課題に柔軟に対応することのできるネットワーク組織を編成するなど、住宅を取り巻く幅広い分野の施策との連携を図っていくことが重要である。
- ・大阪市におかれては、本提言を踏まえ、日々進化する情報発信手法を活用するなど、社会経済情勢等の変容にも柔軟に対応しつつ、さらなる都市居住の魅力を高める施策の推進を図られることを願うものである。